



# モエワ★カムイ

NO.

43

MAR 1996

●モエワ・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。

あさひやまどうぶつえんニュース  
ASAHIYAMA ZOO NEWS

もくじ

シリーズ

「ぼくは動物大使」 2.3

その4 カピバラ

特集

「冬の動物園」 4.5.6

Vet News (動物病院から)  
6.7

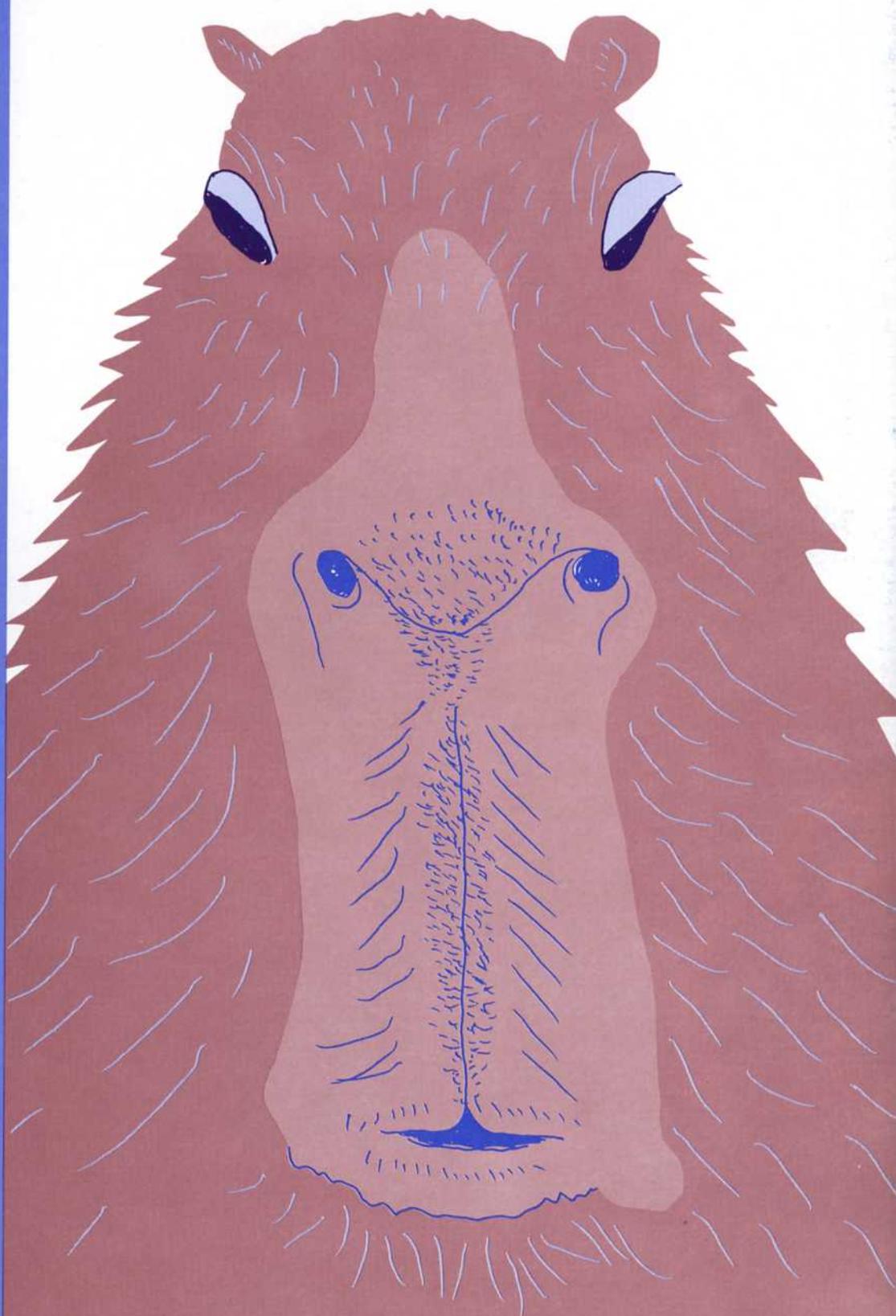
真一のみ

ゲンちゃんの追求コーナー

クイズ

できごと 8

編集後記



カピバラ

*Hydrochoerus hydrochaeris*



ぼくは

# 動物大使

## その4 世界最大のネズミの仲間 カピバラ

### カピバラ

*Hydrochoerus hydrochaeris*

南アメリカのパナマからアルゼンチン北東部にかけての、アンデス山脈より東側に生息している。水べを好み、泳ぎも得意である。

### 旭山動物園での家族紹介



#### おばあちゃん 12才

昭和61年に旭山動物園にきました。一緒に来たおじいちゃんはもう死んでしまいました。孫の面倒を良くみる優しいおばあちゃんです。



#### おとうさん 2才

平成7年の春に鹿児島県の平川動物園から来たおむこさんです。なかなかメスたちと一緒に出来ませんが、今は立派なおとうさんです。



#### おかあさん 5才

おばあちゃんの娘で、平成2年に旭山動物園で産まれました。1月18日が初めてのお産でした。無事4頭のおかちゃんを出産。子育て中です。



#### こどもたち 0才

今年の1月18日に4頭の赤ちゃんが産まれました。次の日からおかあさんたちの食事を横取りし、食べ始めました。家族と仲よく、スクスク育っています。

今年の春に皆さんと会えるのが楽しみです。

#### 顔

水に入ると無理をしなくても鼻の穴、目、耳だけを水面より出すことが出来るようになっている。カバ、ワニもそっくりだね！



#### モリージョ

オスの目と鼻の間に黒くこんもりした部分があり、ここから白くねばっこい分泌液が出る。

#### 歯

大きな前歯。前歯だけでなく奥歯（臼歯）も一生伸び続ける。

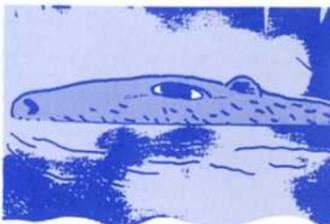


#### 脚

指の間に水かきがついている。

#### 水の中のカピバラ

一見するとヌーっとしているカピバラ。でも水に入ると、まるで「水を得た魚」。しなやかな動きで潜水なんかもやってしまう。夏の暑い日はよくプールに入っているから、皆さん見に来てネ。



世界一大きな「ネズミの仲間」です。ジャガーなどの肉食獣に狙われたら水の中に逃げます。このため水中でも自由に行動できるような体のつくりになっています。

#### 体重

生まれたときは2kgぐらいで、大人になると60kgぐらいになる。

#### うんこ

陸上でも水の中でもする。形はソーセージ型や粒々型である。

#### 群れ

血縁のあるメスたちと、数頭のオスで群れを作る。

#### 赤ちゃん

お母さんは妊娠期間約5カ月で、体重約2kg、平均4頭の赤ちゃんを産む。赤ちゃんは産まれて数分後には歩き始めて、次の日から餌も食べる。

### 旭山動物園にいるネズミの仲間

「ネズミの仲間」とは、「げっ歯目」に分類される動物たちのこと。地球上の哺乳類の約40%、1700種が「ネズミの仲間」です。

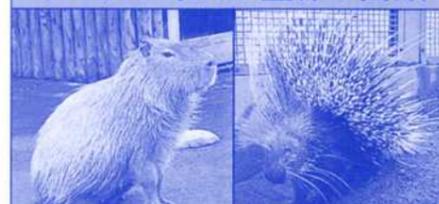
彼らの共通の特徴は、鋭くとがった1対の伸び続ける前歯（門歯）があることです。

げっ歯目は次の3つの型に分けられます。旭山動物園で飼育しているネズミの仲間を紹介しましょう。

#### リス型げっ歯類

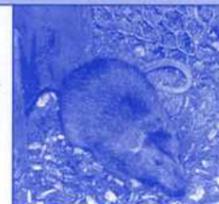


#### テンジクネズミ型げっ歯類



#### ネズミ型げっ歯類

でもこれは飼いたくて飼っているんじゃない！



### 南アメリカのネズミの仲間

南アメリカにはカピバラを始め、ヌートリア、パカラナといった体重が10kg以上にもなるテンジクネズミの仲間がたくさんいます。彼らはみな草食性で、ちょうどアフリカのヌーやインパラといった草食獣と同じ生態的地位を占めています。

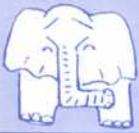
これは南アメリカにはシカやウマの仲間などの草食獣が殆どいなかったためネズミの仲間が生活圏を広げ大型化し、草食獣として進化したためと考えられています。皆さんがよく知っているモルモット（テンジクネズミ）も南アメリカが原産です。



#### カピバラの食事

(平成8年2月10日)  
7頭分の1日量

乾草	2kg
ハクサイ	5kg
ルーサン	1kg
サツマイモ	1kg
リンゴ	0.5kg
バナナ	1kg
ペレット	1kg
パン	520g



## ゲンちゃんの追求コーナー

**Q** : アザラシの鼻の穴はどうして閉まったり開いたりするのですか?  
旭川市 佐藤 利奈ちゃん



**A** : 海やプールで泳いでいて、鼻の中に水が入って、鼻の奥が痛くなったことがあるでしょう。こんな時「鼻の穴が閉じればいいな」と思います。だからアザラシの鼻は自由に閉じたり開けたりできるのです。でも人間でも上手に泳げる様になると、間違っって鼻の奥に水が入ることはなくなります。まして泳ぐのが上手なアザラシならそんなことしなくてもいいんじゃないかな?と思います。

ところが、水中で上手に息を止めていられるようになって、深く潜って水圧がかかったり、水中で、でんぐり返しをしたりすると、鼻の奥に水が入ってきます。

ですから、シンクロナイズドスイミングの選手や「海女さん」などは、鼻に栓をして鼻の穴をふさぎます。やっぱり深く潜ったり、魚を追いかけるアザラシは鼻の穴が閉じれないと困るのです。

同じ様な理由で、水の中で生活する時間の長いカバ、カビバラ、そしてワニなども鼻の穴を自由に閉じることができません。

じゃあ陸上で生活する動物はどうかといえば、ラクダができます。エッ!ラクダも水に潜るの?そうではありません。砂ぼこりで鼻の中に砂が入らないようにするためです。

耳や目にもいろんな仕組みがあるのですがそれは別の機会に追求しましょう。



## 動物病院VETニュース ヒツジの危機

去年の暮れのことでした。ふれあい広場で飼育しているヒツジが赤いおしっこをされました。2~3日前からちょっと元気・食欲がなくなっていたので、あわてました。とにかく血液検査をしてみました。するとすごい貧血。赤血球が破壊されてしまう溶血性の貧血でした。赤血球が破壊されて出た赤い色素がおしっこに出ていたのです。赤血球は酸素を全身の細胞に運んでいるので、これが減ると組織が酸欠を起こしてしまい、命に関わります。

何かの中毒なのか、赤血球の中にすみ着く小さな虫なのか、原因がつかめないまま、中毒の線で治療を開始しました。ところが状態は悪化し続け2日後には命も危ない状態になりました。そこで治療方針を虫の線に変えてみました。この薬が効を奏して容体は回復に向かい2週間ほどですっかり元気になりました。

私たち動物園の獣医は野生動物を相手にしています。野性動物の病気については家畜の病気ほど詳しく知られていません。ですから私たちも家畜の病気の知識を頼りに治療をしているわけです。今回の羊の様な症状の病気は、野性動物では見たことがないので、「こんなものもあるんだな」といい勉強になりました。

家畜は人が面倒を見ることを前提に「作られた動物」ですから野性動物に比べて病気や怪我が多い様な気がします。また警戒心が薄いので病気になるとストレートに症状を見せてくれます。症状を隠す野性動物を相手にしていると、家畜の病気を見ることは、不謹慎かも知れませんが、われわれにはとてもいい勉強になります。



## ホッキョクグマ

その名のとおりホッキョクにすんでいる彼らには、旭川の冬は暑すぎず、寒すぎず快適なようです。彼らの動物舎は動物園では唯一、室内に暖房施設がありません。私たちにすれば、1日中外に出していても何の心配もないので、手間がかかりません。ただ、部屋を掃除するとき（水を流してデッキブラシで擦るのですが）、水がすぐに凍って、スケートリンクになってしまい、すってんころりんと痛い思いをしますので、気を付けるのはこれくらいです。

出産は閉園した10月の下旬から11月にあります。野性では出産するメスは、雪穴を掘って、ヒグマと同じように、冬ごもりをして出産、育児をします。動物園では、この時期、メスを強制的に部屋に閉じ込めてしまいます。部屋は真っ暗にして、コンクリートの床の一部には暖房をいれ（コンクリートは冷えると氷よりも熱を奪う）、水を遠隔操作で与える以外、担当者でさえ部屋に近づかないようにします。うまく出産すると数カ月の絶食になります。この冬は残念ながらことに流産してしまいました。今度の冬こそは、と今から力が入っています。

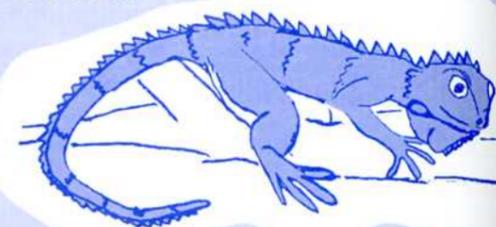


## ゴマフアザラシ



流氷と共に北海道にやって来る代表的な動物です。流氷の上で出産する彼らにとって、旭川の冬は最適です。プールの水が凍って、まさに流氷がやって来た状態になるのです。プール一面が氷で覆われるようになると、彼らは、息をしたり水の中に入りするための「穴」を確保するのですが、なにせプールの水は真水なので、凍るスピードが早いのです。穴がどんどん小さくなると私たちが心配になってきます。

息をしようと水面に浮かんで来たら穴がない！考えただけで、いてもたってもいられなくなり、「つるはし」で穴を広げてやります。



## 爬虫類

爬虫類は、私たち哺乳類や鳥類のように自分で体温を一定に保つことができません（変温動物）。だから寒いときは日向に、暑いときは木陰にといったように移動して体温の調節をします。ですから寒いところにすんでいる爬虫類は、冬になると土の中などで冬眠します。動物園にすんでいる爬虫類は熱帯に住んでいる爬虫類なので、寒くなると体調を崩してしまい、動けなくなって死んでしまいます。

そこで爬虫類舎には、人工の太陽光線がでるライトや、赤外線のでる暖房などを設置して、1年中暖かな環境を作っています。

未来映画に出てきそうな住環境ですね。



## 特集

### 誰も知らない 冬の動物園

「動物園が冬になって閉園すると、飼育係は無職になるね」と半分冗談、半分本気で言われることがあります。冬になったからゾウやキリンを暖かいところに預けるわけでもないので、冬でも動物はいます。だから私たちは失業しません。冬の動物園、皆さんはなかなか見る機会がないので、動物たちがどのように「越冬」しているのかを紹介したいと思います。



## ゾウ

アジアやアフリカの暑いところにすんでいる動物の代表選手ですが、暑さ対策のための暑い皮下脂肪（断熱材）や、体の大きさの割に熱を逃がす体の表面積が小さいため、寒さにも結構強いのです。

部屋の中は14~15℃に暖房し、毎日2~3時間外に出します。日光浴、運動不足の解消、ストレスを貯めないなどのためです。彼らが雪をおいしそうに食べたり、雪を巻き上げて「雪浴び」をしているのを見ると、気持ちよさそうで、真似したくなります。日差しが強い日など、部屋に入る時間になっても、なかなか入ってきません。そんな時いちばん心配なのが「霜焼け」です。あの大きな耳の縁が霜焼けになりやすいのです。痛痒いから、鼻で掻いているうちに耳の縁がポロポロとなくなってしまう。今度動物園に来たときにはゾウの耳をよくみて下さい。「ぎざ耳」になっています。自分の耳が・・・と考えるとゾウツツとしますが、彼らにとっては「寝込むほど」のことではないようです。



## サルの仲間

サルの仲間は、ほとんどが熱帯、亜熱帯の1年中果物や虫や木の葉といった食べ物があるところにすんでいます。当然旭川の冬のような寒いところで生活できるような体の仕組みはありません。特に尻尾の長いワオキツネザルやクモザルの様に尻尾の長いサルは要注意です。尻尾の先が霜焼けになるのです。

霜焼けになると、痒いものだから尻尾の先を自分でかじります。するとそこが化膿してますますかじります。そのうちに尻尾が短くなってしまいます。

チンパンジー、オランウータンをはじめサルの仲間は冬の間ほとんど外に出しません。部屋の中は20℃前後に保たれているため、寝正月が何カ月も続いているような状態です。ですから冬の間、外に出す動物は、与えるカロリーの高い食べ物を与えたりといったことをするのですが、サルの仲間には「冬太り」しない様にかえってカロリーを少なくします。





# 真一の目

「週に1度の……」

最近、テレビや雑誌などで「これであなたもやせられる！〇〇ダイエット」と特集を組んでいるものをよく見かけます。その効果は別として、世の女性たちは、あれだこれだと色々試しているようです。

当園では、ライオンやオオカミといった肉食動物には、週に1度餌があたらない「絶食日」があります。といっても別にダイエットのためではありません。野生では毎日ご馳走にありつけることはめったにないことですし、この絶食は、消化器系の内臓を休ませ、浄化することにもなります。また絶食による「飢え」は、動物の生命力や繁殖力を高める様な気がします。

飼育係にすれば「親心」のつもりの絶食は、当然動物は分かってくれません。ライオンは餌がないことに気付くと、部屋に入ってくれません。彼らにとって1日で1番楽しみなひとときははずですから無理もありません。それでもなだめすかせて部屋に入れるのですが、怒りはおさまりません。大きな声で吠えたり、扉を叩いたりとその訴えは続きます。目が合うとまさに「喰ってかかってきそうな目」でいらんできます。

そして翌日、昨日とは逆に「早く部屋に入れてくれ」と扉を叩きます。扉を開けると一目散に寝室に駆け込み、夢中で餌を食べ始めます。それを見て「健康状態良好」と安心するのです。

ともあれご飯をもりもり食べられるのは、健康の証です。ダイエット中のみなさま、無理をせず、程々に頑張ってくださいね！



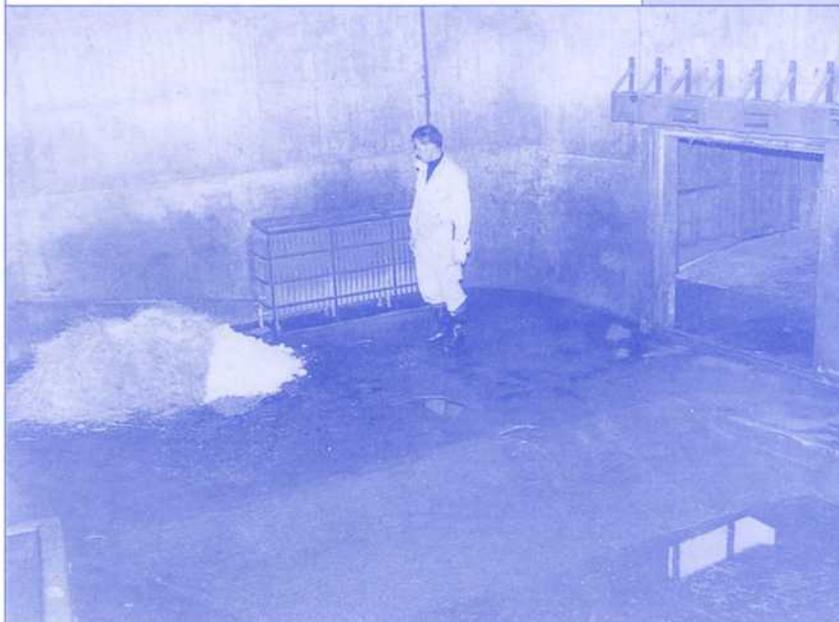
# クイズ

この写真は旭山動物園で飼育しているある動物の寝室です。この部屋を使用している動物とは何でしょう？

1. カビバラ
2. カバ
3. ミシシッピーアリゲーター

正解者の中から抽選で3名の方に旭山動物園特製エゾシカのキーホルダーが当たります。

応募方法はハガキに答と住所、氏名、年齢、電話番号を書いて、旭山動物園モユク・カムイ係までお送りください。



## 応募×切

1996年4月15日

## 前号の答え

正解はチンパンジーでした。

正解率はなんと100%でした。

## キーホルダー当選者

旭川市 浅野智奈美さん  
札幌市 山下 美樹さん  
三重県 酒井里絵子さん

## できごと

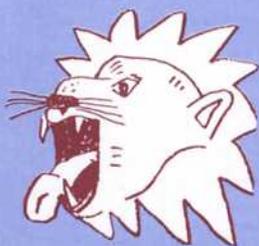
- 12月7日 アジアゾウ「アサコ」  
前足爪の基部炎症  
治療開始
- 12月9日 ウンピョウ麻酔  
健康診断 ワクチン接種
- 12月23日 オセロット麻酔  
健康診断 ワクチン接種
- 1月18日 カピバラ出産（4頭）
- 1月28日 トカラヤギ跛行  
ギプス固定
- 2月2日 オマキトカグ出産



## 飼育動物数

(12月1日現在)

哺乳類	43種	140点
鳥類	99種	428点
爬虫類	10種	32点
合計	152種	600点



## お知らせ

### ◎モユク・カムイの申し込み方法

1年分の送料として190円切手4枚を同封して、旭川市旭山動物園モユク・カムイ係までお申し込みください。

## 編集後記

今年度最後の43号は、ちょっと紙面構成を変えてみました。皆さんが普段見ることのできない、冬の動物園の紹介をメインにしました。

もっとこうして欲しい、ああして欲しいという意見がありましたら旭山動物園編集部までお便り下さい。



## モユク・カムイ No.43 平成8年3月25日

発行所 旭川市旭山動物園 〒078 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104

発行 小菅正夫

編集委員 坂東元・阿部寛・中田真一・松島守・辻松淳二

印刷 谷川印刷株式会社 〒070 旭川市旭町1条4丁目 ☎0166-51-0653